

第22回 親と子の古墳巡り (加茂町～駅家町)

平成16年5月5日 (水)



親と子の古墳巡り行程表 (予定)

- 10:30 開会式
猪の子古墳 見学
- 11:00 正福寺裏山古墳群
(見学はしません)
- 12:00 粟塚古墳の丘 見学
粟塚古墳群などを見学
～ 昼食
◎クイズ大会もあります!
- 13:00 出発
- 13:30 掛迫6号古墳 見学
- 14:30 二塚古墳 見学
- 15:00 山の神古墳 見学
- 15:30 閉会式

福塩線時刻表 (駅家駅)

福山行き	15:52
	16:22
	16:52
府中行き	15:57
	16:28
	16:59

●古墳時代っていつ?

古墳(こふん)時代は今から1700年から1300年も前のことです。

古墳時代の前の弥生(やよい)時代は、日本に米づくりが入り、大きなムラが多くでき、争いがはじまりました。そして、ムラをまとめるようなクニができ、女王卑弥呼(ひみこ)のいるような邪馬台国(やまたいこく)が栄えました。その少しあとの古墳時代は西日本を中心として、大きなまとまりができる時代です。それは、鉄をたくさん手に入れ、武器(ぶき)やよろいをつくって武力で人々を支配しました。また、鉄は田畑を切り広げたり、水路(すいろ)をつくったりする道具にも多く使われ、米などもたくさんつくれるようになりました。

古墳に葬(ほうむ)られた人は、古墳時代(こふんじだい)の指導者(しどうしゃ)の人たちと、その一族の人たちです。

仁徳天皇(にんとくてんのう)の墓として宮内庁(くないちょう)が管理(かんり)している日本一大きな大仙(だいせん)古墳は、前方後円墳(ぜんぽうこうえんふん)という形の山のような墳丘(ふんきゅう)です。中には石室(せきしつ)があり、墳丘の上には埴輪(はにわ)が立っています。

●古墳というのは、

古墳(こふん)時代にたくさんつくられた土を盛(も)りあげてつくった墳丘(ふんきゅう)を持(も)った墓のことを言います。

●古墳をつくったのは

古墳(こふん)時代より前の弥生(やよい)時代という時代から墓がどんどん大きくなっていきました。当時の人は大きな墓にはいるのが自慢(じまん)でした。古墳時代になって墓はいっそう大きくなりました。まわりに濠(ほり)や堤(つつま)をまわしました。それが一番大きくなったものが大仙(だいせん)古墳です。濠や堤をつけて人を入れなくして、できるだけ大きく見せようとしました。

●古墳がなくなるのは

古墳時代にどんどん大きくなった墓は、指導者はその大きな墓をみんなに見せて、その人の権力(けんりょく)があることをしめして、人々を治(おさ)めようとしてきました。でも、中国大陸(ちゅうごくたいりく)や朝鮮半島(ちょうせんはんとう)の人から人々を治める方法を学び、それを使うようになりました。そのため、大きい古墳をつくれる権力をしめすことはあんまり必要ではなくなりました。

・このことは聖徳太子(しょうとくたいし)の冠位十二階(かんいじゅうにかい)や十七条憲法(じゅうしちじょうのけんぽう)のような、政治(せいじ)のしくみを法律できちんと決めようとしたことによくあらわれています。

こうしたしくみが整(ととの)うと、無理(むり)に大きな墓をつくるようなことはしなくなりました。また、大きな古墳をつくる土地もだいに少なくなってきていました。

でも、聖徳太子(しょうとくたいし)も、まだ古墳が多くつくられていた時代の最後の方の人で、古墳に葬(ほうむ)られました。

●王はいたか

天皇(てんのう)という呼(よ)びかたは、1200年ほど前の飛鳥(あすか)時代の終わりごろから後に使われたものです。その前は、中国の歴史書の『宋書(そうしよ)』や1500年ほど前の鉄剣(てっけん)や鉄刀(てつとう)、銅鏡(どうきょう)には王という文字があります。王と呼ばれた人がいたことは確(たし)かです。でも、この文字は「おう」とは読まずに「きみ」と呼んでいたことの方が多そうです。

1 猪の子古墳

○古墳の形：方墳（一辺14㍍、高さ3㍍）

→円墳の説もある

○埋葬施設：横口式石槨（せっかく）

→花崗岩（かこうがん）の切石（きりいし）を組み合わせて作った、遺体を入れる小型の部屋

○埋葬施設の大きさ：

全体の長さ 6.6㍍

・せん道（通路部分）

長さ 3.8㍍ 幅 1.7㍍ 高さ 1.25㍍

・玄室（部屋の部分）

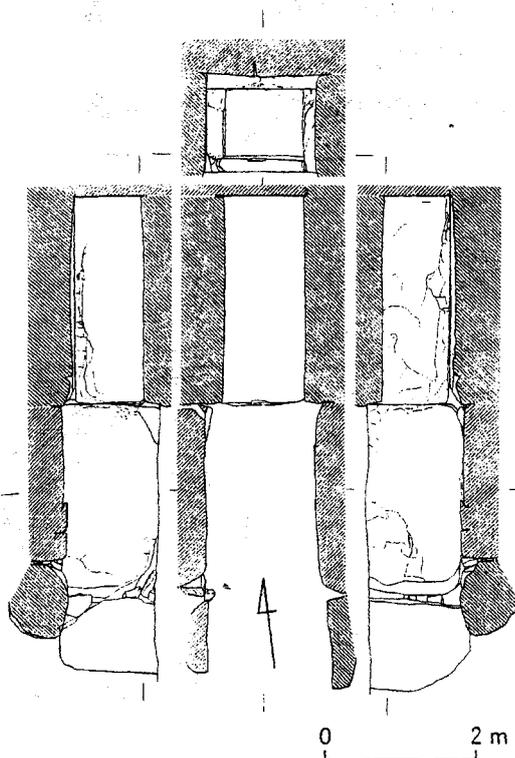
長さ 2.82㍍ 幅 1.09㍍ 高さ 0.9㍍

○遺物：？

○作られた時代：古墳時代終末期（8世紀ごろか）

●ここを注目！：

- 1) 四角い石（切石）を組み合わせている部屋の様子をよく見よう！
- 2) 石と石のすき間に“漆喰（しっくい）”が残っているのだけれど、見えるかもしれない？



猪の子1号古墳石槨実測図

2 正福寺裏山古墳群ほか

○1号墳：円墳（一辺16㍍、高さ2㍍）

- ・ 竪穴式石室（たてあなしきせきしつ）
→ 平たい石を積み上げて作った部屋
→ 水はけをよくするための排水溝もあった
- ・ 遺物 中国製の鏡が出土
- ・ 作られた時代 古墳時代前期（3世紀後半ごろ）

●ここを注目！

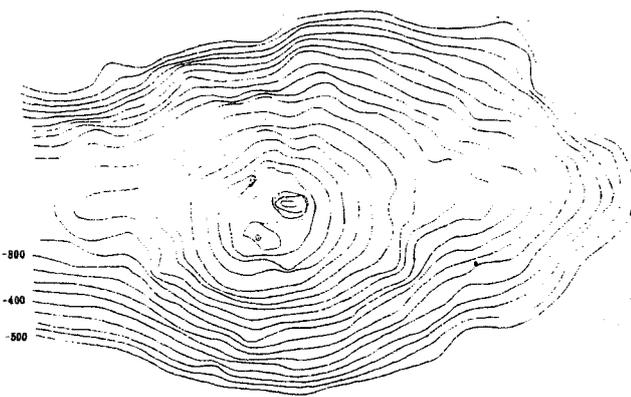
- 1) 粟塚古墳の丘に石室が復元されているので見てみよう
- 2) みんなが入れるくらいの大きさかな？

○2号墳：前方後方墳（全長29㍍、高さ3㍍）

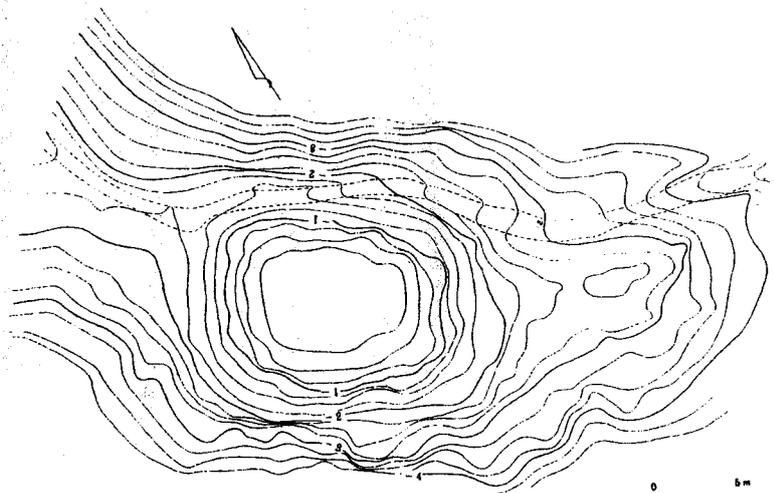
- 発掘調査をしていないので、くわしいことはまだわかっていません

○加茂倉田遺跡：弥生時代～古墳時代の集団墓

- ・ 土坑墓（どこうぼ）
→ 地面に坑を掘っただけの墓 約80基
- ・ 箱式石棺（はこしきせっかん）
→ 板石を組み合わせた墓 3基
- ・ 石詰土坑墓（いしづめどこうぼ）
→ 坑の回りを石で囲んだ墓 4基



正福寺裏山1号古墳墳丘測量図



正福寺裏山2号古墳墳丘測量図

3 栗塚古墳の丘

○栗塚古墳群

- ・ 3号墳（直径 21 ㍍、高さ 2.5 ㍍の円墳）

→ 詳しい調査はしていませんが、古墳の中央で粘土槨（ねんどかく：粘土で木棺の回りを覆った施設）が見つかっています。

古墳時代の前期～中期（4世紀～5世紀ごろ）の墓と考えられます。

- ・ 5号～8号墳

→ どれも小規模の横穴式石室（よこあなしきせきしつ）をもつ円墳です。

古墳時代後期（6世紀ごろ）の墓と考えられます。

○狼塚2号墳：円墳（直径約 12 ㍍）

横穴式石室があります。

別の場所にあったものを、ここに移して復元しています。

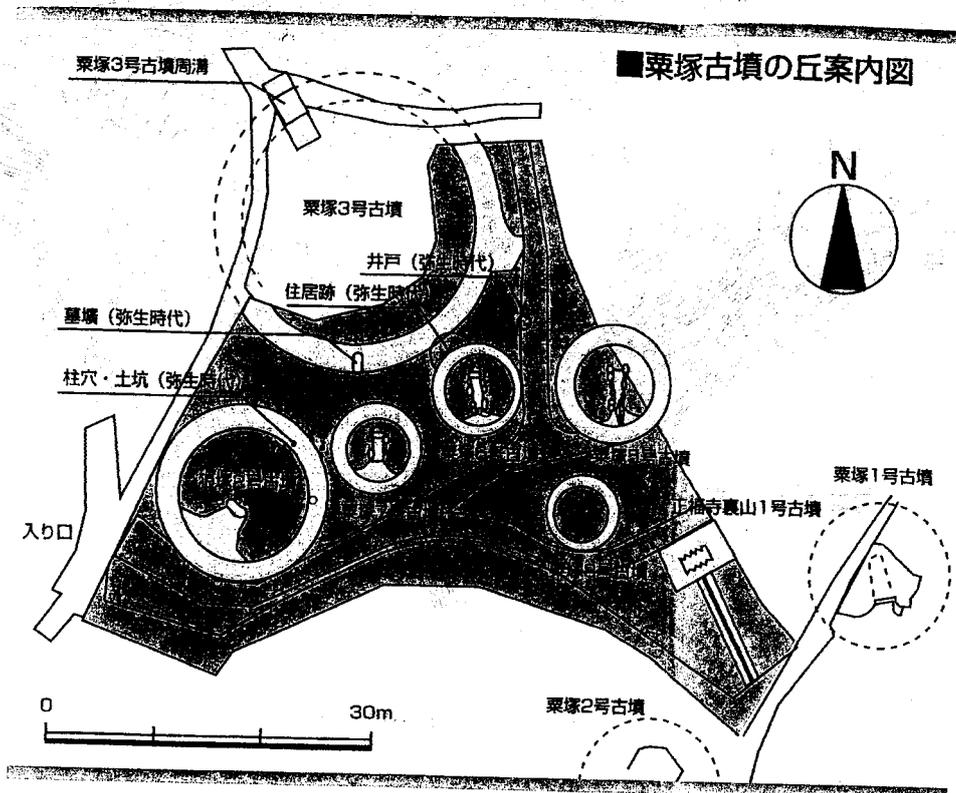
古墳時代後期（6世紀ごろ）の墓と考えられます。

○正福寺裏山1号墳の石室

復元して展示しています

●ここを注目！

- 1) 横穴式石室の中を見よう！
- 2) 竪穴式石室と横穴式石室の違いを調べよう！
- 3) どうして近くにいくつも作っているのか、考えてみよう！



4 掛迫6号墳

○古墳の形：前方後円墳（全長47m、高さ約4m）

→円墳の説もある

○埋葬施設：2基の竪穴式石室

○遺物：中国製の鏡（三角縁神獣鏡含む）

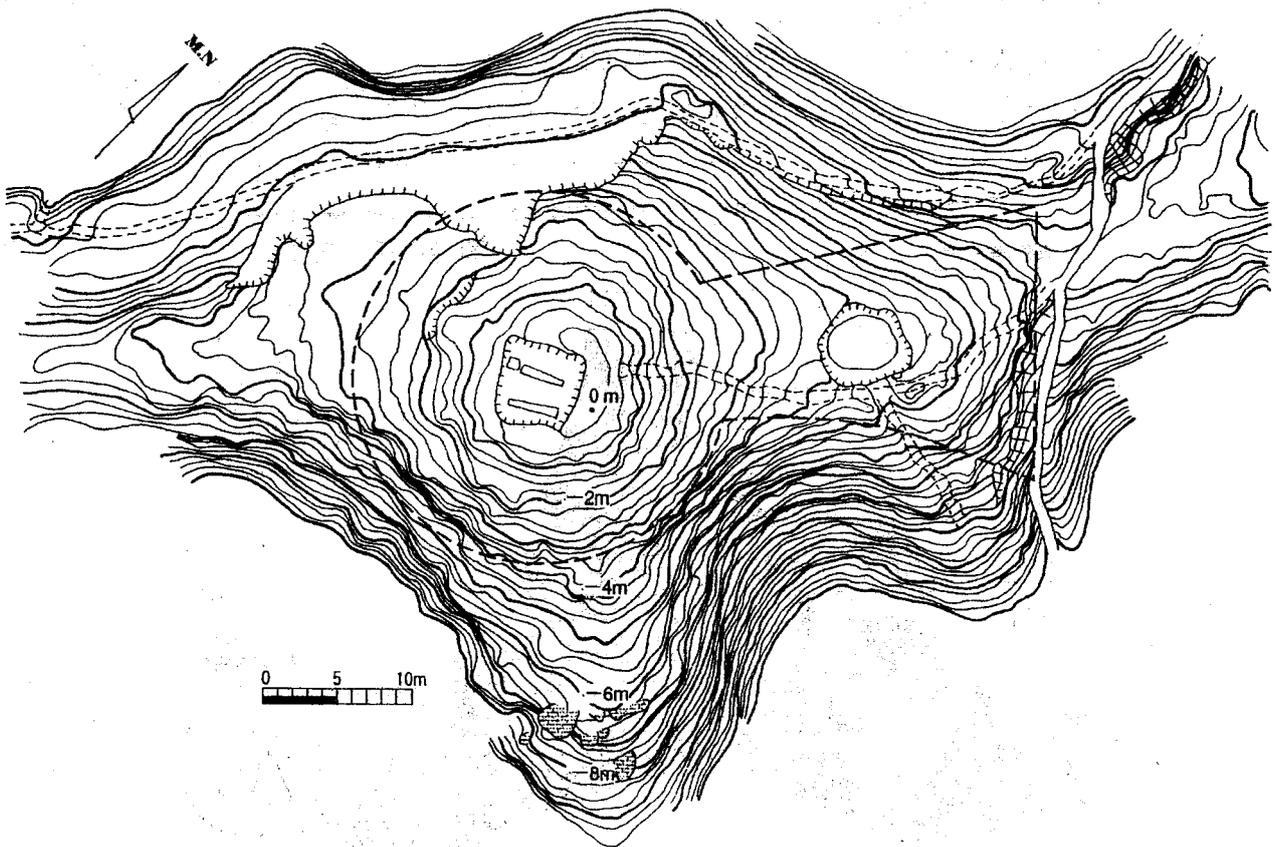
鉄製品・玉類

○作られた時代：古墳時代前期～中期（4世紀～5世紀ごろか）

●ここを注目！：

1) 竪穴式石室の大きさを、正福寺裏山1号墳と比べてみよう

2) 古墳の形がわかるかな？



掛迫第6号古墳推定復元図

5 二塚古墳

○古墳の形：石室のみ残っているのではありません

○埋葬施設：大形の横穴式石室

(残っている) 長さ 4 ㍍

高さ 3.1 ㍍ 幅 2.42 ㍍

○遺物：青銅製の鏡・玉類・馬具類

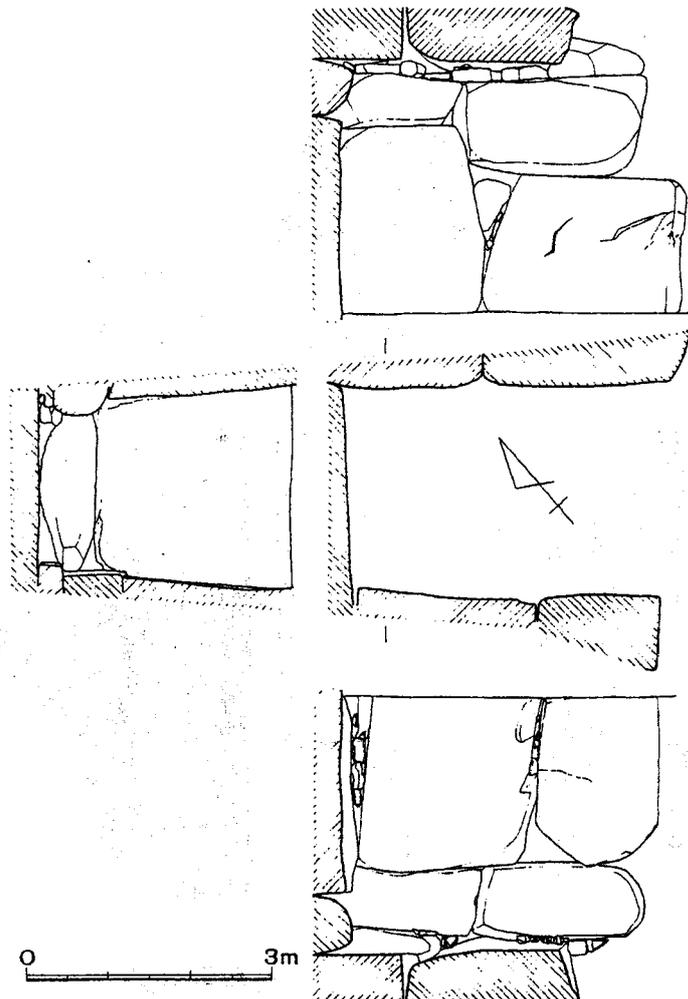
武器類・須恵器など多数

○作られた時代：古墳時代後期（6世紀ごろ）

●ここを注目！：

1) とにかく大きな石室です。

2) 古墳の形がわかるかな？



二塚古墳石室実測図

6 山の神古墳

○古墳の形：円墳（直径12㍍、高さ4㍍）

○埋葬施設：（片袖式）横穴式石室

→ 通路が石室の一方の壁につながってるタイプ

せん道 長さ2.3㍍、幅1.26㍍、高さ1.25㍍

玄室 長さ4.1㍍、幅2.9㍍、高さ3.3㍍

○遺物：馬具類・鉄製品

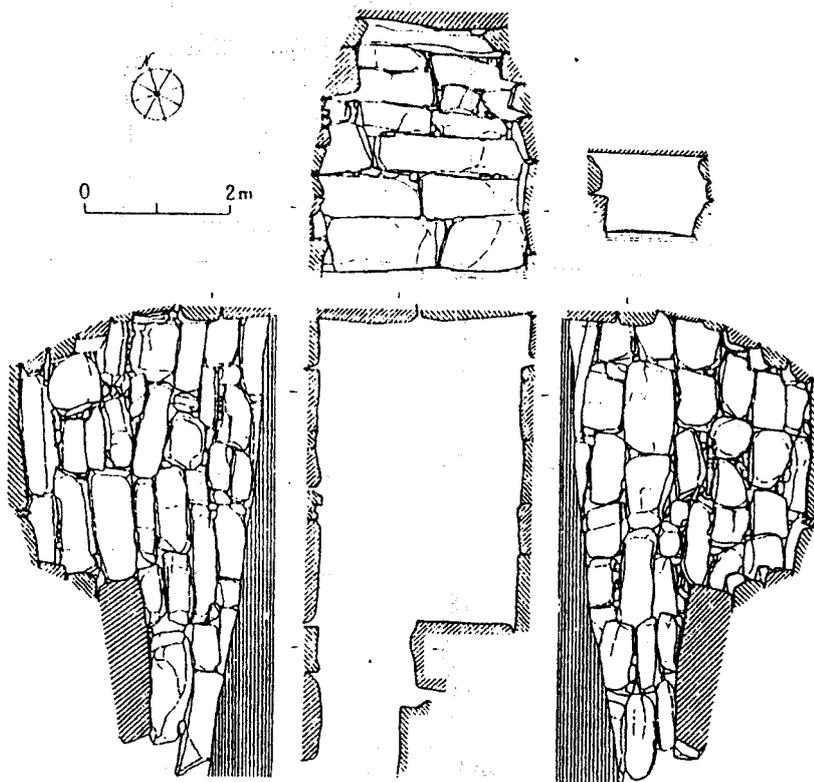
須恵器・土師器など多数

○作られた時代：古墳時代後期（6世紀ごろ）

●ここを注目！：

1) 片袖式の石室というのがわかりますか？

2) 石室の壁が、内側に傾いて作られています（持ち送り式と言って、横穴式石室の中では古いタイプです）。



山の神古墳横穴式石室実測図